資料4

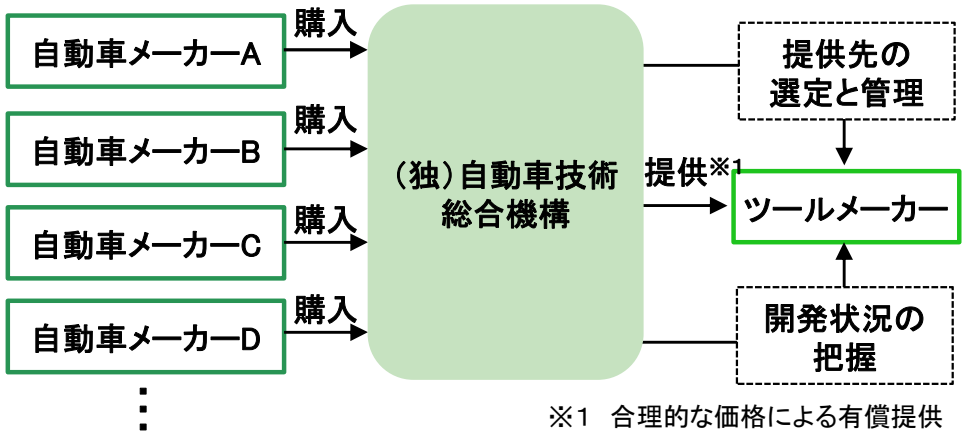
スキャンツールの機能拡充に向けた進捗状況
(「標準仕様のあり方検討WG」報告)

令和8年3月19日(木)
標準仕様のあり方検討WG

標準仕様スキャンツールの新スキーム運用

○ 新スキーム運用の中核を担う第三者機関は（独）自動車技術総合機構に決定
○ 運用開始に向けた準備を急ピッチで進行中（令和8年夏頃運用開始予定）

新スキームの概要（更新）



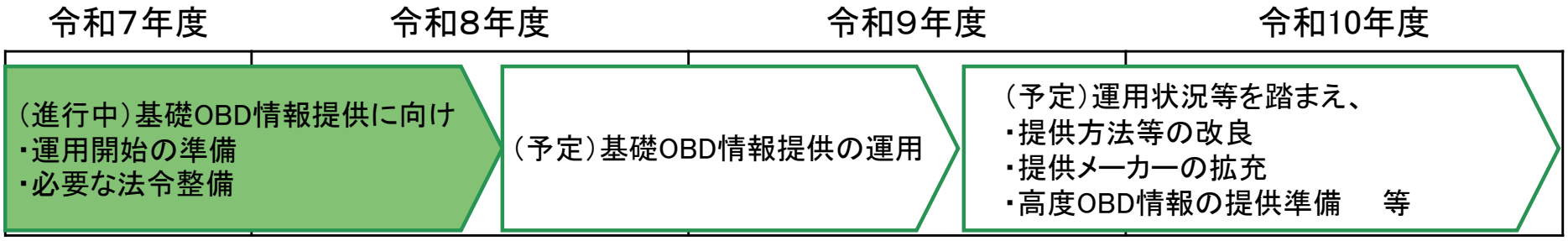
※1　合理的な価格による有償提供

○ （独）自動車技術総合機構（以下「機構」という。）が自動車メーカーから基礎OBD情報※2を一元的に購入
- 購入する基礎OBD情報の「粒度」「フォーマット」を標準化
- 合理的な価格での情報入手
- 機構が契約主体となり、自動車メーカーとの契約に係るツールメーカーの負担を軽減

○ 機構からツールメーカーへ基礎OBD情報を提供（有償）
- ツールメーカーの開発計画・状況を一元的に把握
- 開発状況については整備工場への情報提供も可能に

※2 「基礎OBD情報」：セキュリティ構築が不要なOBD情報

今後の予定



- 令和8年夏頃に新スキームを活用した基礎OBD情報提供の運用開始を予定
- 併せて、「標準機」を国が認定する制度創設を検討

純正スキャンツールの活用拡充策試験導入

○ 純正スキャンツールに係る「駆け込み寺」、「短期貸出」を試験導入（令和8年度以降開始予定）
○ サービスの提供にあたっては、ツールメーカーの整備拠点※等を積極的に活用

※ ツールメーカーが保有又は提携する整備拠点

（背景）
- 先進安全技術等の進展に伴い、エーミング作業等、高機能なスキャンツールを必要とする機会が増加
- お困りごと調査等から、汎用スキャンツールのみでは対応が困難なケースが報告されている

試験導入する施策の概要

✓ ツールメーカーが保有・提携する整備拠点等を純正スキャンツール活用拠点として設定
✓ まずは全国3地域に試験導入（運輸支局単位を想定。詳細は調整中）
✓ 併せて、純正スキャンツールの購入窓口の分かりやすい案内方法を検討・周知

純正スキャンツールを活用した外注サービス（駆け込み寺）

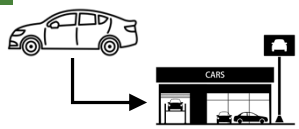
➢ OBD検査対象車（全ての国内自動車メーカー）を対象として令和8年夏頃開始予定
➢ 整備事業者からの外注により純正スキャンツールを用いたサービス（エーミング作業等）を提供

純正スキャンツールの短期貸出

➢ 準備が整った自動車メーカーから順次開始（令和8年度以降）
➢ 整備事業者からの依頼により純正スキャンツールの短期貸出サービスを提供

試験導入イメージ（調整中）

＜該当地域の整備振興会＞
◆ 試験導入に係る周知



＜整備事業者＞
◆ 診断、整備、修理
◆ 純正スキャンツール活用拠点に問合せ・作業依頼

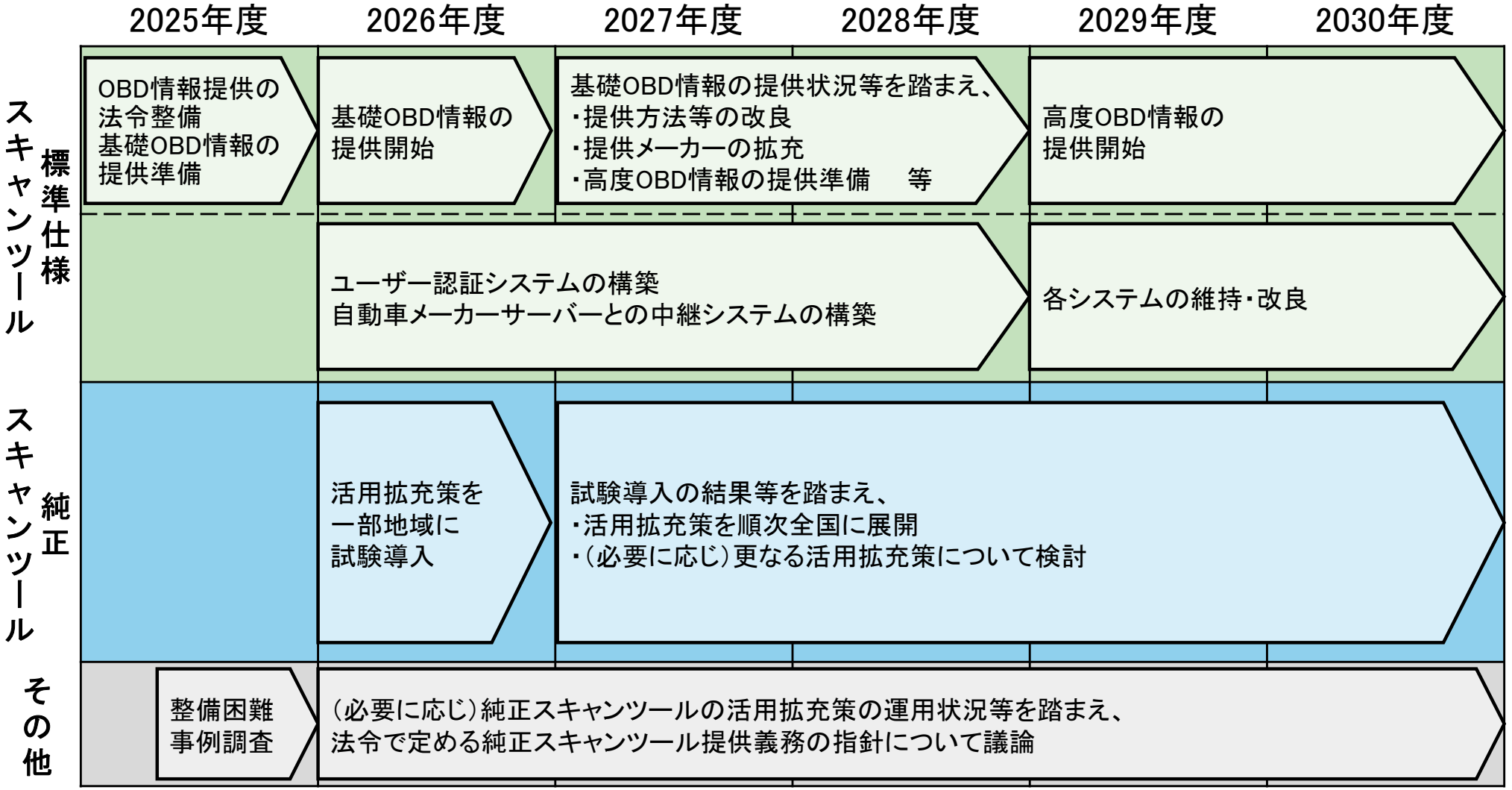
＜純正スキャンツール活用拠点＞
◆ 依頼内容の確認
◆ 対応方法の相談、見積り（外注作業受入/純正スキャンツール貸出）

（参考）スキャンツールの機能拡充スケジュール（案）

第31回検討会資料4の再掲

○ 高度なOBD情報（例：エーミングの情報）の開示は、セキュリティ構築を前提として行う必要
- 第一フェーズ（令和8年度から開始予定）：基礎OBD情報のみ取り扱う（ただし、開示レベルは諸外国と同等）
- 第二フェーズ（早期実現に向け調整中）：高度OBD情報まで拡大、ユーザー認証等のセキュリティ構築

○ 並行して、純正スキャンツール※の活用拡充策を進める
- （具体的には、）短期貸出体制の創設又は第三者を経由したサービス提供体制の試験導入、順次拡大



※自動車メーカーがリコール等の一部機能を制限のうえ専業工場等に提供するものを「専用スキャンツール」と称するが、本資料では「純正スキャンツール」と特に区別しない。